

三瓶玲奈
MIKAME Reina

14 October — 24 December 2017

《光の距離》
油彩,キャンバス
Distance of the light
oil on canvas
41.0×31.8 cm 2017
photo: TAKAHASHI Kenji

《Park》と題された三瓶玲奈の作品。スピード感のあるストロークで描かれた赤いループ状の形態がひととき印象的だ。見慣れた英語の題名とループ状の形態から、たいていの人は公園の滑り台を描いたものと想像するだろう。だが、実際に描かれているのは有栖川宮記念公園で、赤い形象は滑り台ではなく、広尾駅側の入口すぐにある池だという。作家によれば、この絵は池を見下ろす位置からみたもので、赤いストロークは瞬間的にみえた池の輪郭、青色のタッチはその周囲の樹木や木漏れ日だそう。赤く囲まれた部分は池の水面にあたり、確かに、そこには木々や木漏れ日が映り込むさまが表現されている。極度に簡略化され、きわめて抽象化されたイメージを通じて、光の効果や反射そのものの表現を目指している点で、この作品には三瓶の最近の関心がよく現われているといえるだろう。

今春大学院を修了したばかりの三瓶は、これまで一貫して光の表現を意識して制作を行ってきた。室内の花瓶や水差し、あるいは身近な風景をモチーフとしつつ、イメージの抽象化を推し進めていく過程で、対象の本質を見極めようとする真摯な眼差しが、光の効果や反射に対する鋭敏な感覚を研ぎ澄ませていったのだろう。

そうした光の表現への探求は、モビールにはじまり、シャンデリア、ドラムセット、窓枠を経て、夕陽、池の水面へとつづくモチーフの選択に端的にあらわれている。しかも、光の表現への関心の高まりに比例するかのように、モチーフはほとんど判別しがたいまでに断片化されて解体されていく。とくに昨年頃から作風は抽象度を増し、特定のモチーフに依存することなく、日常のつかの間に目にする光の効果や反射を表現することに作家の意識は集中している。その極北ともいえるのが、《光の距離》と題された今回の新作に違いない。作家の手許にある晶洞石を描いたというこの作品は、一見したところ、さまざまな色彩のタッチを重ねた純粋な抽象絵画のようにしか見えないだろう。さまざまな色彩を帯びて見える晶洞石から反射光以外を捨象して、見えるがままに描いている。モチーフを超越した次元で、色(イコール光)そのものを描くことが追求されている。

見えるがままに光の効果を描き出す三瓶だが、制作の初期段階では相当量のスケッチを行っている。スケッチといっても、外出先でふと目に留まった気になるモチーフがあれば、メモ用紙や何かの裏紙など、持ち合わせの紙に描き、また、持ち合わせの紙がないときにはスマートフォンのアプリを使って描くこともあるという。こうして繰り返しスケッチという地道な行為を重ねることで、描写すべき対象を手先の感覚に覚えさせ、キャンバスに向かうときにはスケッチを一切見ることなく制作するのだという。このようにスケッチは三瓶にとって、視覚像の身体化ともいえる作業であり、この身体化された記憶の強度こそが彼女の作品の強度になっている。

光の表現の深化とともに、近年の作品では動きの表現も重要な要素となっている。その契機は、おそらくモチーフとしてのモビールだったのではないだろうか。動きに対する

関心は、乱反射する光の表現とも不可分であり、さらに風景画制作を通じてより強く意識されたはずだ。実際、池を描いた《Park》では、空や風にそよぐ周囲の木立が映り込む水面の様子が描写されている。

動きの描写は当然、時間という概念の表出に結びつく。コップや瓶の表面の光のきらめきでも時間の概念は表出されるが、沈みゆく夕陽、池の水面に映り込む木々の揺らめきなど、その傾向はより顕著に看取されるだろう。三瓶の作品に特徴的な画面の余白を考慮するならば、時間という言葉よりも、「間」という言葉の響きの方がより相応しいかも知れない。たんなる時間の経過だけでなく、三瓶の制作には彼女の知覚を通じて身体化された物理的、心理的な距離感も表出されている。静物と風景、具象と抽象の間を自在に往還しつつ、そこに光や動きの一瞬の表情を捉えようとする三瓶玲奈の作品が、不思議な生命感のようなものを湛えているのもそうした理由からに違いない。

[東京オペラシティ アートギャラリー | 堀元彰]

01 《光の距離》 油彩, キャンバス <i>Distance of the light</i> oil on canvas 324.0 × 130.0 cm 2017	06 《Park》 油彩, キャンバス oil on canvas 53.0 × 65.2 cm 2017	11 《Untitled》 油彩, 板 oil on wooden board 44.5 × 42.8 cm 2017
02 《The day》 油彩, キャンバス oil on canvas 145.5 × 227.3 cm 2017	07 《Park》 油彩, キャンバス oil on canvas 53.0 × 65.2 cm 2017	12 《Untitled》 油彩, 板 oil on wooden board 44.5 × 42.8 cm 2017
03 《Staying water》 油彩, キャンバス oil on canvas 97.0 × 130.3 cm 2017	08 《光の距離》 油彩, キャンバス <i>Distance of the light</i> oil on canvas 41.0 × 31.8 cm 2017	13 《Untitled》 油彩, 板 oil on wooden board 30.0 × 45.5 cm 2017
04 《Pop-up the boundaries》 油彩, キャンバス oil on canvas 100.0 × 100.0 cm 2017	09 《光の距離》 油彩, キャンバス <i>Distance of the light</i> oil on canvas 41.0 × 31.8 cm 2017	14 《Untitled》 油彩, 板 oil on wooden board 30.0 × 45.5 cm 2017
05 《向こうの光》 油彩, キャンバス <i>Light over there</i> oil on canvas 72.7 × 60.8 cm 2017	10 《光の距離》 油彩, キャンバス <i>Distance of the light</i> oil on canvas 41.0 × 31.8 cm 2017	15 《Untitled》 油彩, 板 oil on wooden board 35.0 × 26.5 cm 2017

三瓶玲奈

- 1992 愛知県生まれ
2015 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻卒業
2017 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了
東京都在住

主な個展

- 2012 「トーキョーワンダーウォール都庁」, 東京都庁第一本庁舎3階南側空中歩廊
2013 「TWS-Emerging 203」, トーキョーワンダーサイト本郷, 東京
「恋に落ちる」, アートハウスあいち
2016 「投影」, Yutaka Kikutake Gallery, 東京
2017 「三瓶玲奈展」, 六本木ヒルズクラブ, 東京

主なグループ展

- 2012 「トーキョーワンダーウォール公募2012入選作品展」, 東京都現代美術館
2014 「齋藤永次郎・三瓶玲奈」, 深川番所, 東京
2015 「アートアワードトーキョー丸の内2015」, 丸ビル1階 マルキューブ, 東京
2016 「大矢真梨子, Nerhol, 三瓶玲奈」, Yutaka Kikutake Gallery, 東京
2017 「磯谷博史, 三瓶玲奈, 向山喜章, 田幡浩一」, Yutaka Kikutake Gallery, 東京

MIKAME Reina

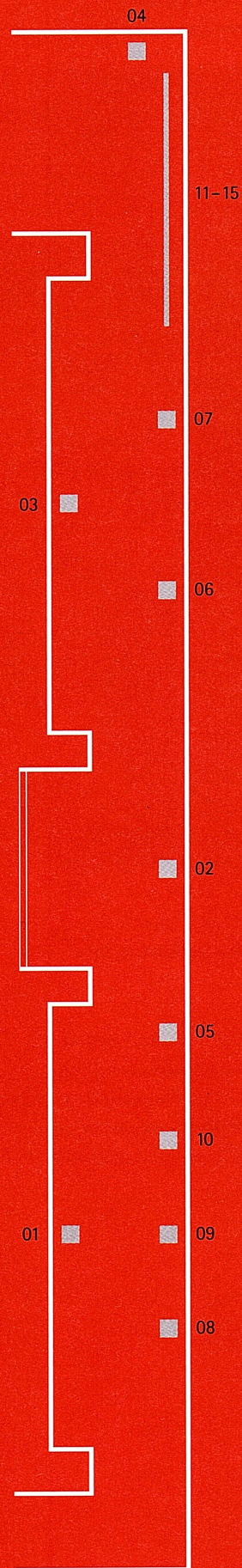
- 1992 Born in Aichi
2015 Graduated from Oil Painting Course, Department of Painting Faculty of Art and Design,
Tama Art University
2017 Completed the Master Course of Oil Painting Graduate School of Fine Arts,
Tokyo University of the Arts
Lives in Tokyo

Selected Solo Exhibitions

- 2012 "Tokyo Wonder Wall 2012," Tokyo Metropolitan Main Building No.1
2013 "TWS-Emerging 203," Tokyo Wonder Site Hongo, Tokyo
"Fall in Love," Art House Aichi
2016 "Reflection," Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo
2017 "Reina Mikame Exhibition," Roppongi Hills Club, Tokyo

Selected Group Exhibitions

- 2012 "Tokyo Wonder Wall Award 2012," Museum of Contemporary Art, Tokyo
2014 "Eijiro Saito and Reina Mikame," Fukagawa bansho, Tokyo
2015 "Art Award Tokyo Marunouchi 2015," Marunouchi Building Marucube, Tokyo
2016 "Mariko Oya, Nerhol, Reina Mikame," Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo
2017 "Hirofumi Isoya, Reina Mikame, Kisho Mwkaiyama, Kouichi Tabata," Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo





project N

project Nは、当館コレクションの中心作家である故難波田龍起氏の遺志を受け継ぎ、若手作家の育成・支援を目的として、コリドールで開催している展覧会シリーズです。

This "project N" is a series of exhibitions held at corridor which aims to introduce emerging young artists, in accordance with the wishes of the late Nambata Tatsuoki (1905-97), one of the main painters in our collection.

主催 | 公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

ARTGALLERY
TOKYO OPERA CITY

東京オペラシティ アートギャラリー
〒163-1403 東京都新宿区西新宿 3-20-2
tel. 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

《Untitled》

油彩、板

oil on wooden board

35.0×26.5 cm 2017

photo: TAKAHASHI Kenji

『project N_69 MIKAME Reina』 exhibition catalogue,
TOKYO OPERA CITY ART GALLERY, October 2017